知ってたようで忘れた物語

「電子頭脳は人間の友達？」

宇宙家族ロビンソンより

電子頭脳って聞くと何を思い出しますか？　私たちは、当たり前のようにコンピュータに囲まれて生活をしていますね。ご飯を炊くにも、マイコン炊飯器が、火加減をはじめ、固目や柔らか目など思い通りのご飯を、簡単に炊き上げてくれます。もちろん、お風呂のお湯はりも自動で、適温になったらチャイムが教えてくれたりと、すっかり身の回りはコンピュータ制御の製品に囲まれていますね。
そのうえ、今ではパソコンやタブレットといった IT 機器は、一人一台（それ以上かも）の時代になって、巨大なネットの中で自由に、様々なデータにアクセスできるようになりました。
それでは、日本で初めて電子頭脳という言葉を、広めたのは誰でしょうか！？

そう、漫画の神様と呼ばれている手塚治虫先生です。

その手塚先生の代表作ともいえる、日本の商業アニメ第 1 号として、作られた作品内に登場するロボットの中に電子頭脳が組み込まれています。

(1952/04-1968/03)

（現在、電子書籍で全 18 巻出ています。）

実は、この漫画が描かれたのは２０世紀ですから、手塚先生はまだ見ぬ２１世紀の世の中を想像して描いた SF 漫画だったんですね。

物語は 21 世紀（もう実際の時間で２１世紀ですから、本当にびっくりする漫画です。）の未来社会が舞台です。

「鉄腕アトム」は、１０万馬力のロボットが主人公の漫画です。
アトムは、科学省長官・天馬博士が一人息子の飛雄(とびお)くんを交通事故で失ったことで生み出された、飛雄くんにそっくりなロボットです。
このアトムの誕生日は、2003 年 4 月 7 日です。どうです、お気づきのように物語では、すでに鉄腕アトムは実在している筈なんですが、まだ現れていないようです。(^O^)
現代では、人工知能（ＡＩ）という名で実現に近づきつつあります。

アトムは七つの機能を持っています。その第１の機能が「電子頭脳」です。アトムは、どんなに難しい計算でも瞬く間に解いてしまうし、複雑な機械の操作も楽にこなしてしまいます。記憶能力が優秀なのはもちろん、なんと言っても電子頭脳（桁外れのスーパーコンピュータ）なので、善い人・悪い人を見分ける事が出来るという能力も、備わっています。

ですが、人の持つ感情という微妙な感覚は完全な形では意識できなくて、きれいなもの、可愛いもの、怖いものを感じるという、人間のような感情（感覚）は不完全だったようです。

アトムは天馬博士が死んだ息子の代わりとして作ったロボットで、お茶の水博士の指導の下人間の世界を理解し、やがて正しいことと悪いことの違いを学んでいきます。
ですが、アトムには本当の意味での家族はいません。
アニメの中では「後から作られた」両親と、兄(コバルト)と妹（ウラン)がいますが、彼らアトムの「家族」はお茶の水博士の手によるものです。
アトムは、「天馬博士の息子のかわり」という役割を持って生まれているので、時に悩むことになります。

不完全ながらも、電子頭脳にも感情が宿ることを想像した手塚治虫という人物の深さに触れることのできる作品だと思います。

ちょっと変わったところでは、この電子頭脳は頭部ではなく、ボディー部分のフタのまん中に収まっています。物語の中で、時々頭部が取れてしまったり、別のアタマと取り換えたりしても平気です。
胸の電子頭脳がある限り、アトムはアトムなんですね。

【物語】

天馬博士は、科学省の総力を結集してアトム作りあげます。
天馬博士は最初そのロボットを自分の失った息子として愛しましたが、アトムが成長しないことに腹を立て絶望し、ロボットサーカスに売り飛ばしてしまいます。実は、アトムという名は、このときサーカスで付けられます。

天満博士に代わって、新しく科学省長官になったお茶の水博士の努力で、ロボットにも人権が認められるようになり、アトムはようやくロボットサーカスから解放され、自由の身となります。
アトムは、お茶の水博士によってつくられたロボットの両親といっしょに郊外の家で暮らし、お茶の水小学校へ通うことになりました。この幸せな生活の中で事件が起こると、アトムは人間社会を守るために、その 10 万馬力のパワーで、敢然と悪に立ち向かっていくのです。

コンピュータは人が作ったものです。
電子頭脳あるいは、人工知能（ＡＩ）の開発がさらに進んでいく世界は、どういう未来を描くのでしょうか？！
ちょっと怖いと思っているのは僕だけでしょうか・・・

コンピュータウイルスに感染したかな？　と思ったり、
コンピュータの動きがおかしい場合お気軽にご相談ください。